

臓器移植の関心と臓器提供 意思表示における臓器移植態度 との関連¹⁾

今野 順*

Relationship between Attitudes toward and Interest in Organ Transplantation and Decisions about Organ Donation

Jun KONNO*

In this study, we examined the relationship between the attitude toward and interest in organ transplantation and decisions about organ donation. A questionnaire survey was administered to 266 students (average age 19.17 ± 1.10 years). Cluster analysis of the organ transplant attitude scale on the three pertaining subscales indicated that there were three types of clusters. Interest in organ transplantation increased in the order of CL 1, CL 2, CL 3, and it was shown that the intention to decisions organ donation increases in the same order.

key words: attitude to organ transplantation, interest in organ transplantation, decisions about organ donation

問題と目的

公益社団法人日本臓器移植ネットワークには、毎年1万4000人前後の人が臓器移植希望の登録をしている。しかし、脳死下、心停止下での臓器提供は、2010年の113件をピークに2013年以降は100件を下回り、移植を行うための臓器は足りておらず、移植を受けた人より移植の機会を待ちながら亡くなる人の方が多いのが現実である（公益社団法人日本臓器移植ネットワーク, 2017）。内閣府大臣官房政府広報室（2017）の移植医療に関する世論調査では、世論の56.4%が臓器移植に関心があると回答しており、前回調査の内閣府大臣官房政府広報室（2013）の臓器移植に関する世論調査の57.8%から減少している。また、同調査による臓器提供の意思表示についての調査結果は、2013年の臓器提供の意思表示を行っている人は12.6%、2017年は12.7%とほぼ変わっていない。

1997年に臓器の移植に関する法律（以下、臓器移植法）が施行され、2010年には改正臓器移植法が施行された。臓器移植法の施行や臓器提供の意思表示の多様化、メディアへの露出など、臓器移植医療について触れる機会が増え、臓器移植についての関心の高まりや臓器提供が増えることが予測された。しかし、臓器移植への関心の高まりや臓器提供意思表示の増加には繋がっておらず、依然として臓器不足は解消されていない。

そこで本研究では、今野（2017）の臓器移植態度尺度を用いて、臓器移植への関心と臓器提供意思表示について、どのように臓器移植態度との関連を示すか検討し、これによって臓器移植の現状を理解するための一助となる資料を得ることを目的とする。

方 法

調査対象者²⁾ 関東圏内の大学生266名（男性49名、女性216名、不明1名、医療系学生107名、非医療系学生159名）、平均年齢19.17歳（不明1名、SD=1.10）、回収率100%、有効回答率96.99%。

調査時期 2016年6月～9月。

手続き 調査は講義時間内に実施し、回収した。回答時間は約15分であった。回答依頼時には学校の成績に一切関係がないこと、個人のプライバシーは保護されること、アンケートの回答は強制ではないことを文章と口頭で説明した。

調査項目 調査項目には今野（2017）の臓器移植態度尺度（以下、OTAS）と内閣府（2013）の臓器移植に関する世論調査を用いた。

OTASは、臓器を提供することに関して拒否をあらわすようなネガティブな項目から構成される“臓器提供抵抗（計7項目）”、臓器移植医療に対する客観的な立場からの否定をあらわすようなネガティブな項目から構成される“臓器移植客観的否定（計6項目）”、臓器提供について肯定的に進めるようなポジティブな項目から構成される“臓器提供推進（計5項目）”の3因子計18項目で作成されている。回答方法は“全くそう思わない”から“非常にそう思う”の7件法で回答を求めた。

内閣府の臓器移植に関する世論調査では“臓器移植に関心がありますか”、“臓器を提供する・しないと”といった意思を、いずれかの方法（医療保険の被保険者証、運転免許証、臓器提供意思表示カード、臓器提供意思登録システム）で記入していますか”の2項目を用いた。回答方法は2件法で回答を求めた。

結 果

データのコーディング 分析を行う前に、無効な回答が5%以上の調査対象者8名のデータを削除した。続いて、残りの258名のデータについてLittleのMCAR検定を行い、一部

¹⁾ 本研究の一部は、日本応用心理学会第84回大会（2017）で報告された。

* 横浜市立大学大学院都市社会文化研究科
Graduate School of Urban Social and Cultural Studies,
Yokohama City University, 22-2 Seto, Kanazawa-ku,
Yokohama, Kanagawa 236-0027, Japan

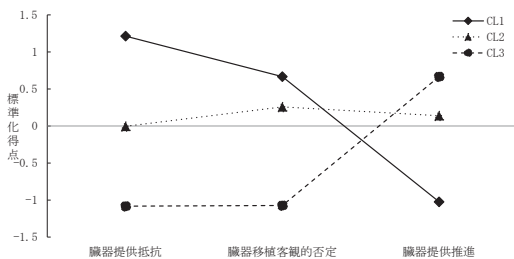


Figure 1 クラスタ分析による OTAS における分類結果

Table 1 各クラスターにおける臓器移植の関心と臓器提供意思表示の比較

	臓器移植の関心				臓器提供の意思表示			
	関心あり		関心なし		意思表示あり		意思表示なし	
	%	n	%	n	%	n	%	n
CL1	71.00	(44)	29.00	(18)	6.50	(4)	93.50	(58)
CL2	84.30	(107)	15.70	(20)	15.70	(20)	84.30	(107)
CL3	87.00	(60)	13.00	(9)	21.70	(15)	78.30	(54)
全体	81.80	(211)	18.20	(47)	15.10	(39)	84.90	(219)

のデータの欠損がランダムに生じていることが確認され、各尺度に EM 法を用いてデータの補完を行った。

クラスタ分析による OTAS における分類 OTAS の各下位尺度を z 得点化した上で階層的クラスタ分析 (ward 法) を用いて分類した。デンドログラムから 3 つに分類可能と考えられた。そこで、クラスタ数を 3 つに指定し、非階層的クラスタ分析 (k-means 法) を用いて分類を行った。結果は、臓器提供抵抗と臓器移植客観的否定が高く臓器提供推進が低い (CL1 : n = 62)、全てが平均的 (CL2 : n = 127)、臓器提供抵抗と臓器移植客観的否定が低く臓器提供推進が高い (CL3 : n = 69)、の 3 つに分類されることが確認された (Figure 1)。

各クラスターの臓器移植の関心と臓器提供意思表示の比較

まず、医療系学生の各クラスターの割合は、CL1 は 26.20% (n = 28)、CL2 は 45.80% (n = 49)、CL3 は 28.00% (n = 30)、非医療系学生の CL1 は 22.50% (n = 34)、CL2 は 51.70% (n = 78)、CL3 は 25.80% (n = 39) であった。

続いて、各クラスターを臓器移植の関心あり、関心なしと臓器提供の意思表示あり、意思表示なしで分類した。

臓器移植の関心は、全体の関心ありは 81.80%、関心なしは 18.20% であった。各クラスターについては、CL1 (関心あり : 71.00%、関心なし : 29.00%)、CL2 (関心あり : 84.30%、関心なし : 15.70%)、CL3 (関心あり : 87.00%、関心なし :

²⁾ 本研究で測定したデータは、今野 (2018) で用いられたデータと重複している。ただし、同研究は“援助規範意識と利他行動が臓器移植態度に与える影響”を解明することを目的としていることから、本研究とは目的が異なる。また、援助規範意識尺度と対象別利他行動尺度を用いた分析を行っており、臓器移植の関心と臓器提供意思表示における臓器移植態度との関連を検討した本研究とは、分析の目的も異なる。

13.00%) であった。

臓器提供の意思表示は、全体の意思表示ありは 15.10%、意思表示なしは 84.90% であった。各クラスターについては、CL1 (意思表示あり : 6.50%、意思表示なし : 93.50%)、CL2 (意思表示あり : 15.70%、意思表示なし : 84.30%)、CL3 (意思表示あり : 21.70%、意思表示なし : 78.30%) であった (Table 1)。

考 察

本研究の結果から、クラスタ分析によって OTAS の下位尺度から分類されたグループについて、医療系学生、非医療系学生のグループの割合は、共に CL2、CL3、CL1 の順に大きく、各グループの割合は医療系、非医療系の専攻による大きな違いはないことがわかった。

臓器移植の関心と臓器提供意思表示のグループについては、CL1、CL2、CL3 の順に臓器移植の関心ありが増え、臓器提供の意思表示ありについても同じ順番で増えることが示された。そのようなことから、OTAS の下位尺度の臓器提供抵抗と臓器移植客観的否定が高く、臓器提供推進が低いグループほど臓器移植についての関心が低く、臓器提供の意思表示を行う人が少なくなり、臓器提供抵抗と臓器移植客観的否定が低く、臓器提供推進が高いグループほど臓器移植についての関心が高く、臓器提供の意思表示を行う人が多くなることが考えられた。

ところで、全てが臓器移植に対してネガティブな態度である CL1 は、臓器提供意思表示を行っているのは 6.50% と少ないが、臓器移植についての関心は 70% を超えており、内閣府の調査と比べても臓器移植への関心は高い傾向であった。CL3 は全てが臓器移植に対してポジティブな態度のグループであるが、その中でも 13.00% が臓器移植に対して関心がなく、78.30% と多くが臓器提供の意思表示を行っていない。このような結果から、OTAS は臓器移植の態度をはかる尺度として、今後検討を重ねる必要がある。

心理学領域での臓器移植の研究はまだ少ない。一つでも多くの詳細な研究を發表することが臓器移植の現状の理解につながるだろう。

引用文献

公益社団法人日本臓器移植ネットワーク 2017 (<http://www.jotnw.or.jp/index.html>) (2017 年 11 月 13 日)
 今野 順 2017 臓器移植の態度に関する心理尺度の作成の試み 応用心理学研究, 42 (3), 267-268.
 今野 順 2018 援助規範意識と利他行動が臓器移植態度に与える影響—医療系学生と非医療系学生の比較— 応用心理学研究, 43 (3), 238-243.
 内閣府大臣官房政府広報室 2013 臓器移植に関する世論調査平成 25 年 8 月調査 (<http://survey.gov-online.go.jp/h25/h25-zouki/>) (2017 年 11 月 13 日)
 内閣府大臣官房政府広報室 2017 移植医療に関する世論調査平成 29 年 8 月調査 (<http://survey.gov-online.go.jp/h29/h29-ishoku/>) (2017 年 11 月 13 日)